

このプログラムは、2週間京都で暮らしながら日本の様々な伝統的・現代的な文化および習慣などを学ぶプログラムである。教室で日本語を勉強することだけでなく、京都大学の先生達の講義を聴きながら色々な観点から京都の歴史や文化、そして日本人の考え方を学ぶことができる。例えば、日本の学校教育、文学、言葉使い等から日本の社会について考察する機会を得た。さらに、大学の外でも日本文化を学ぶことができる。このプログラムは、日本人（京大生）も参加しているので、日本人と直接意見を交換しながら自分の日本語能力、特に聴解と会話の能力を磨くことができるという側面を持っている。さらに、自分の国と日本、さらには共に参加している東南アジアの大学生達との交流を通してアジア諸国間での関係を築き得るという側面も持っており、これらを兼ね備えた留学プログラムだと言える。

このプログラムは2週間だけだが、初めての来日だったため、色々なことを学ぶことができた。日本語の能力の向上だけでなく、珍しい京都の話聞くことができた。このプログラムにおける日本語クラスは各人の能力に合うよう、クラス分けされており、短期間にもかかわらず、各人が自分に合ったペースで日本語のスキルを上達させることができる。私が受講した日本語クラスでは、文法や表現を覚えるだけでなく、京都をテーマとした文章を読むことで、日本語を学習しながら京都人の考え方や京都の珍しい歴史について理解を深めることができた。特に「洛中と洛外」についての回は大変興味深いと感じた。このようなテーマの話は相当の予備学習がないと理解が追いつかない事態が予想されるが、京都で京都のことを学ぶことで理解が比較的容易であったように思う。さらに、特別講義においても様々な日本の習慣について学ぶことができた。例えば日本の教育や京都大学の「チンパンジー」についての研究から日本人と外国人の考え方を知ることができた。

学外学習として、京都の観光地をいくつか訪れた。京都のことに詳しい京都大学の学生達と一緒に行くことで、観光客の立場では知り得ない日本の習慣やマナー、現代の日本語表現等について学習することができた。例えば、正しい箸の使い方、餅や生和菓子の作り方、レストランでの注文マナー、公共交通手段における優先座席、食事の際の席順など、単なる観光では学ぶことができないはずだ。初めは、習慣の違いから、うっかり失礼なことをすることもあったが、失敗したからこそ、身に染みつき、忘れにくくなっているだろう。

この2週間京都に滞在し、私の日本に対する考え方が変わった。特に、日本人の性格に対する理解が変わった。日本に来る前は、日本人はとてもしっかりとした性格であり、今考えるよりもずっと声をかけにくいと思っていた。しかし、日本に来て京都大学の学生達に出会い、日本人にも色々な性格の人がいて、とても明るくてフレンドリーな性格の人や、すごくユニークな人も少なくないことに気づいた。

このプログラムの日本語クラスを受講し、色々な京都にまつわる文章を読むことができた。そのため、日本の文学について興味を持ち始めた。特に「京都嫌い」というエッセイが印象的だった。これからも、日本の歴史や文化についての知識を身につけるために、日本についての文章を積極的に読みたいと思っている。そして、これまでに得た京都の知識を活用し、かねてから興味を持っていた「京都とドラマツウリズム」についてさらに勉強しようと考えている。